

# Niigata Award News

(食の新潟国際賞財団通信)



「第9回食の新潟国際賞」推薦募集中  
佐野藤三郎記念「第9回食の新潟国際賞」推薦要項  
シンポジウム「いま、新潟からコメの将来を考える」  
新潟市名誉市民 佐野藤三郎まんが感想文コンクール 審査中  
「にいがた食と農の未来」学生ビジョンコンテスト2025 開催

2025/12/8 第56号

## 「第9回食の新潟国際賞」の推薦募集中。多数のご応募をお願い致します



第8回食の新潟国際賞 受賞者の集合写真

第9回食の新潟国際賞の推薦募集の締め切りが迫っています。今回も、大賞、佐野藤三郎特別賞、21世紀希望賞、地域未来賞の4部門での募集です。

応募は9月1日から始まり、締め切りは令和7年12月26日（金）必着となっております。

是非多くの皆様からの推薦応募を頂きますようお願い致します。

食の新潟国際賞 基本テーマ「食と生命」食の新潟国際賞は食と農に関連する分野で世界や地域のために貢献し実践している人や団体に光をあて表彰することで、世界や地域が抱える食の問題解決や世界の平和と発展に寄与することを願って創設しました。

日本の地方都市新潟の産官学民の有志が協力して創設した、食分野における日本では唯一の国際賞です。

### 第9回食の新潟国際賞選考委員名簿(敬称略)

構成	氏名	所属・職名
委員長	唐木 英明	食の信頼向上をめざす会 代表 東京大学 名誉教授
委員	赤阪 清隆	(公財)ニッポンドットコム 理事長 元 国連事務次長、国連日本政府代表大使
委員	今野 正義	日本食糧新聞社 代表取締役会長
委員	菊地 唯夫	ロイヤルホールディングス(株) 代表取締役会長 経済同友会 副代表幹事
委員	高野 克己	東京農業大学 名誉教授 一般社団法人日本食品保蔵科学会 会長
委員	西澤 直子	東京大学 名誉教授 石川県立大学 参与
委員	阿部 啓子	東京大学 名誉教授 (一社)バイオインダストリー協会 評議員
委員	平沢 裕子	産経新聞社 編集局 文化部 記者 (一社)日本乳業協会 理事
委員	西脇 俊和	新潟県農業総合研究所 食品研究センター長
委員	村山 伸子	新潟県立大学 教授



正賞トロフィーは、佐渡市出身の世界的な金属工芸作家で元文化庁長官の宮田亮平氏が一体ずつ制作。テーマは「跳躍。そして希望」。未来の希望に向かって2頭のイルカが力強く飛躍します。

# 佐野藤三郎記念「第9回食の新潟国際賞」推薦要項

## 趣 旨

WFP国連世界食糧計画及び国連食糧農業機関（FAO）は、世界はパンデミック、ウクライナ侵攻や各地の紛争、大幅な気候変動、そしてエネルギーと肥料や飼料価格の高騰などにより、全世界的な食料危機に瀕しており、8億2800万人（WFP）の人々が飢餓状態にあると警告しています。。

また、国連は2030年を国際目標としたSDGs（持続可能な開発目標）を掲げ、ゼロハンガー(飢餓のない世界)を目指しています。

一方、近年の食糧生産や供給においては、フードテックやアグリテック等による革新的な手法や技術が開発・導入され、異業種間の交流や連携協力により大きな変革が始まっています。

「食の新潟国際賞」は世界において、食の量と質を高め、食を通じて健康増進や世界の人々の福祉と平和に大きく貢献した人や活動を顕彰し、世界の食の課題解決と改善に寄与するために創設された賞です。

## 「新潟」について

新潟市は古くから農業や食品産業が盛んで、米を中心に日本の食糧生産拠点であり、食品の製造、流通、食文化、研究、食育等の各分野が集中している田園都市です。

## 「佐野藤三郎」について

かつて、新潟市の稲作は低湿地帯で腰までつかる泥田での厳しい農作業を強いられ、常に水と土との闘いの歴史でした。

新潟市の亀田郷土地改良区 理事長 佐野藤三郎（1923～1994）氏はこの環境改善に挑戦し泥田を日本一の米を生産する美田に変え、食糧生産基盤を確立するとともに都市と農村の融合する地域づくりにも貢献しました。

また、その経験を基に中国政府の要請に応じて黒龍江省の三江平原の食糧増産の基盤作りに情熱をかけた国際協力の先人でもありました。

今日の「食の新潟」を作り上げた多くの先人を代表する人として、その偉業を称え、第2の佐野藤三郎の誕生を期待し賞のタイトルにその名を冠しました。

2024年にはその功績が認められ佐野氏は新潟市名誉市民章を受章しました。

## 推 薦 要 項

目指す目標

「世界を救う食のイノベーターに光を」

“THE SEARCH FOR FOOD-INNOVATORS CREATING A BETTER LIFE.”

基本テーマ 「食と生命」

第8回のテーマ 「食料安保と持続可能な食料生産と供給を目指して」

## 1. 選考基準

- (1) 国際的または地域的な取り組みであり、斬新で独創性があるもの。
- (2) 持続可能な取り組みであり、世界に強い影響力を与えるもの。
- (3) 実績・知名度が低くとも将来の発展が期待できるもの。

## 2. 対象分野

食分野における ①生産と供給 ②食と健康 ③食と教育の視点を前提とし、各賞の対象は以下の通りです。

(主な事例)

- ①食品加工（食品加工、発明・考案・食料の保存）
- ②食料増産（新しい育種・技術・栽培技術、土地改良、灌漑、治水）
- ③食料の流通の改善と発展
- ④食品の安全と食の向上（食の安心安全・給食）
- ⑤食品機能による健康増進（食品の機能性、栄養・病気予防）
- ⑥食品ロス・食料廃棄問題の課題解決と取り組み
- ⑦食・農教育（教育モデル、食育活動・食文化・伝統食の普及）
- ⑧食分野での国際協力・支援活動
- ⑨持続的な食料の保全と確保（養殖・栽培・自然・環境保護・水産資源保護）

# 佐野藤三郎記念「第9回食の新潟国際賞」推薦要項

## 3. 食の新潟国際賞 各賞について(概要)

### (1) 大賞（グランプリ）

賞状、正賞（記念工芸品）、副賞1,000万円 1件（副賞は受賞者が複数にわたる場合は分配する）  
その研究や活動が世界的に高く評価をされ、世界の食の課題の解決や発展に多大な貢献をするもの。

### (2) 佐野藤三郎特別賞

賞状、正賞（記念工芸品）、副賞100万円 1件  
世界や地域間での国際協力・支援活動や研究においての顕著な実績をあげたもの。

### (3) 21世紀希望賞

賞状、正賞（記念工芸品）、副賞100万円 1件  
将来的に世界貢献への可能性と実現性を有する研究や実践活動であり、今後の発展と成果が十分に期待できるもの。

### (4) 地域未来賞

賞状、正賞（記念工芸品）、副賞100万円 1件  
新潟県内における活動や研究が国内外において高く評価され、地域の活性化と発展に大きく貢献するもの。

（特記事項）各賞とも選考結果、該当者なしの場合もあります。

## 4. 受賞候補者資格

- (1) 国籍、性別、信条は問いません。表彰式に出席可能な方に限ります。
- (2) 国際機関・政府機関に所属している個人及び団体については、その業績や貢献が機関の基本的任務を越えて顕著である場合のみ対象とします。
- (3) 顕著な国際賞（ノーベル賞、世界食糧賞、日本賞、京都賞など）を受賞していない個人、団体を対象とします。

## 5. 受賞者選考について

第9回食の新潟国際賞選考委員会(委員長 唐木英明)により受賞候補者を選定し、当財団理事会で決定します。

## 6. 表彰式

2026年11月に日本国新潟市において開催いたします。

## 7. 推薦応募方法について

- (1) 推薦応募期間 **2025年9月1日（月）～2025年12月26日（金）**
- (2) 推薦書 指定の推薦書フォームを使用（日本語または英語）  
推薦理由を含め2枚以内（厳守）で簡潔に記入してください。  
（推薦フォームはホームページからダウンロードできます）  
ホームページ<https://www.niigata-award.jp/>
- (3) 再推薦 過去に応募し選外となった推薦の再推薦も可能です。
- (4) 推薦 自薦及び他薦が可能です。
- (5) 秘密保持 ① 推薦内容の秘密は守ります。  
② 各賞の推薦情報については、研究の実用化や実践につなげるため、企業や団体との共同研究、実用化支援の目的で開示する事があります。
- (6) 推薦書の返却 原則として返却致しません。
- (7) 推薦書の送付と送付先 **推薦書はE-mailで送付下さい。**  
メールアドレス：info@niigata-award.jp
- (8) その他 選考審査過程において、追加資料の提出をお願いする事があります。
- (9) 事務局 日本国 新潟市中央区古町通7番町1010番地 新潟市役所ふるまち庁舎6階  
公益財団法人 食の新潟国際賞財団 事務局



# シンポジウム「いま、新潟からコメの将来を考える」 ―米をめぐる情勢の激変と今後の行方― 7月開催

コメの供給と価格をめぐる「令和の米騒動」とも言われる事態が続くなかで、食の新潟国際賞財団ではコメ問題のシンポジウムを7月7日(月)午後1時からホテルイタリア軒で開催し、115名の聴講者があり関心の高さを示しました。

## 第1部 基調講演

### 「米政策 過去・現在・未来」―歴史に学び将来を展望する―

針原 寿朗 氏 元農林水産審議官／住友商事(株)顧問



今、日本国内はかつてないほど「コメ」問題に揺れています。  
コメ生産日本一を誇る新潟も、この「コメ」問題をどうとらえ、将来を見つめ、  
どう対応するかが問われています。  
日本の食を支えてきたコメについて、行政、生産者、流通者、消費者が一同  
に会して、現状を把握し、新潟から持続可能な米の将来について考えました。



## 第2部 パネルディスカッション

昨年からお米の市場への供給不足と価格高騰が続き大きな社会問題となっており、コメの生産者、消費者、流通業、コメ加工業など多方面に大きな影響を及ぼしております。新潟は日本一の米生産地として食糧としてのコメはもとより、お酒、米菓、パック米飯などの食品産業が基幹産業として発展してきました。

米産地としてこのコメ問題について農業政策の歴史や流通の仕組み、コメ農業の現状などについて、パネリストが多角的な視点から意見交換し、将来に向けてどう対応するかなどについて議論しました。



ファシリテーター: 渡辺 好明 氏  
(公社)全国農地保有合理化協会 会長 新潟食料農業大学 名誉学長



坪谷 利之 氏  
木津みずほ生産組合理事  
新潟県農業法人会



千田 法久 氏  
千田みずほ(株)代表取締役社長  
(公社)日本炊飯協会会長



石井 勇人 氏  
共同通信アグリラボ編集長  
宮城大学 特任教授



佐藤路登世 氏  
(株)日本食糧新聞社  
ビジネスサポート本部  
チームリーダー、コメ・農業担当



山崎 和美 氏  
NPO法人 新潟県消費者協会  
会長



針原 寿朗 氏  
元農林水産審議官  
住友商事(株) 顧問



# 新潟市名誉市民 佐野藤三郎まんが感想文コンクール 審査中

応募作品の総数は115作品でした。（5年生37作品、6年生78作品）

■新潟市名誉市民となった佐野藤三郎氏についてもっと知ってもらうため、新潟市立小学校の5、6年生を対象に、今年初めて開催した、「佐野藤三郎まんが感想文コンクール」の応募が9月30日で締め切られました。その結果115の作品の応募がありました。

応募作品の学校、学年の内訳は下記の一覧表の通りです。今後、審査委員による慎重な審査を行い、12月に入選作品が決定し、来年1月に表彰式を開催する予定です。

## ■応募作品数（小学校別）

	学校名	総数	5年生	6年生
1	大淵小学校	49	23	26
2	新津第三小学校	32	4	28
3	上山小学校	12	2	10
4	南万代小学校	3	1	2
5	浜浦小学校	2		2
6	横越小学校	2	2	
7	亀田西小学校	2	1	1
8	新津第一小学校	2		2
9	鏡淵小学校	1		1
10	荻川小学校	1	1	
11	亀田東小学校	1		1
12	上所小学校	1	1	
13	岡方第一小学校	1		1
14	木崎小学校	1		1
15	桜が丘小学校	1		1
16	漆山小学校	1		1
17	山田小学校	1	1	
18	坂井東小学校	1	1	
19	黒埼南小学校	1		1
	合計	115	37	78

## 新潟市名誉市民 佐野藤三郎 まんが感想文コンクール



### 募集テーマ：

「まんがにいがた偉人伝 佐野藤三郎」を読んで感じたこと、考えたこと。  
○佐野藤三郎の活動や業績を知って感動したこと。新潟や故郷について考えたこと。  
○佐野藤三郎の活動を通して、将来、自分が挑戦したいと考えた夢や目標について。

応募期間：2025年8月11日(月)～9月30日(火)

募集対象：令和7年度の新潟市内の小学5年生、6年生。

表彰内容：表彰状、副賞(図書券)

○最優秀賞：5作品(表彰状、副賞(図書券5,000円))

○優秀賞：10作品(表彰状、副賞(図書券3,000円))

○佳作：15作品(表彰状、副賞(図書券2,000円))

○応募者全員に参加賞を贈呈します。

応募の方法は  
QRコードから！

主催：公益財団法人 食の新潟国際賞財団

佐野藤三郎顕彰委員会

※「食の新潟国際賞」は新潟市の補助を受けて実施しています。

## ■今後のスケジュール

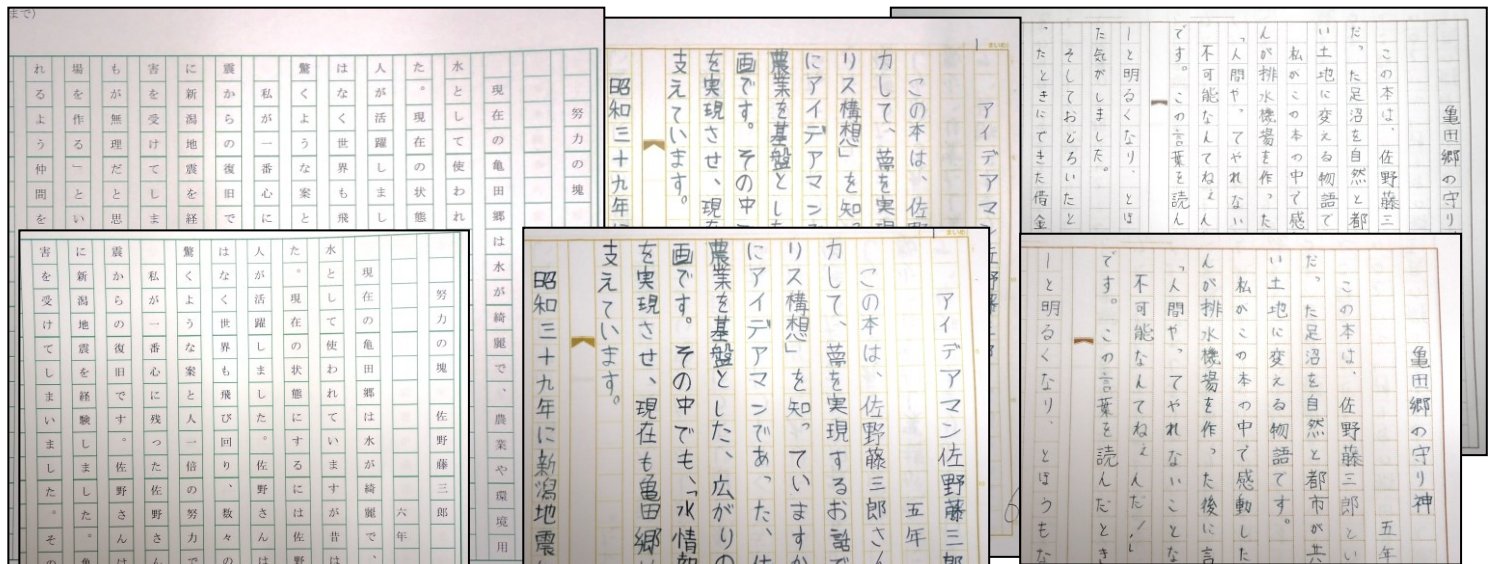
一次審査：10月10日～10月28日

二次審査：11月16日～12月6日

最終審査会議：12月8日(月)

表彰式：2026年1月31日(土)日報ホール

■応募作品 下記は応募作品の例です。タイトルを工夫し、手書きの作品やワープロの作品それぞれです。



# 「にいがた食と農の未来」学生ビジョンコンテスト2025 開催

## ■決勝大会の開催

「にいがた食と農の未来」学生ビジョンコンテスト2025の決勝大会が11月8日(土)に開催され、グランプリが決定しました。この大会は、新潟県内の大学生等が、新潟の農業や食品産業の課題解決と一層の発展のために、画期的なアイデアや提案を、プレゼンテーションで競う大会で、今年で4回目です。

今回からテーマにより二部門制となり、部門A「自由テーマ」、部門B 課題テーマ「地域活性化」で作品を募集。19チームから作品応募があり、書類審査を通過した12チームが決勝大会に臨みました。決勝大会は8分間のプレゼンと4分の質疑応答で行われ、熱のこもったプレゼンテーションが展開されました。

その結果、二つの部門でそれぞれグランプリ、準グランプリ、特別賞が決定しました。



実行委員長：西海理之先生

## ■実施内容

- 【先品提出】 9月23日(月)作品提出締切り 応募19作品
- 【書類選考】 9月26日(金)～10月8日(水)  
決勝大会出場12チーム決定
- 【決勝大会】 11月8日(土) 12:45～17:30
- 【決勝会場】 ガレソンホール 決勝大会来場者：89名



司会：堀敏彦さん



「にいがた食と農の未来」学生ビジョンコンテスト2025 審査結果

賞	部門	作品名	学校名	チーム名	代表者
最優秀賞 グランプリ 部門 A	A	発酵でデザインする未来のミルク	新潟薬科大学	Yeast extLACT	渡辺 大陸
最優秀賞 グランプリ 部門 B	B	推しは突然に。ふぞろいだけど輝く、“にいがたですけ”トレカプロジェクト	新潟食料農業大学	Aqua Rise	本田 拓夢
優秀賞 準グランプリ 部門 A	A	新潟発:カウントされない食品ロスの削減と有効活用	新潟薬科大学	ラーメン★LAB	佐竹 璃沙子
優秀賞 準グランプリ 部門 B	B	いもジェンヌ知名度アップ大作戦～今、私たちが推したい味がある～	新潟大学大学院	おいもほろりー新潟大学いもジェンヌプロジェクトー	櫻田 加奈子
亀田製菓(株)特別賞	B	村上茶の復興～「北限の茶」を未来へつなぐ地域活性化を目指す～	新潟県立大学	李佳ちゃんの9つ子	熊谷 橙太
(株)ブルボン特別賞	B	宝の山の新潟の食品産業を観光資源に！！	新潟産業大学	新潟は美味しい！！	西澤 心朗
(株)栗山米菓特別賞	B	大学×地域×食でひらく、新しい交流と賑わい	新潟工科大学	チーム・コウカ酵母	田中 愛
サトウ食品(株)特別賞	B	日本酒特区で古町再生	新潟県立大学	県大酒場	野村 日成多
一正蒲鉾(株)特別賞	A	捨てない未来へ:新潟酒粕キノコが変える地域・食・健康の三重奏	新潟大学	サケマッシュ	大川原 浩将
審査委員特別賞	A	エソを使用した(新潟バーグ)の開発	新潟食料農業大学	中山ゼミ・越後ボーイズ	近藤 知輝
(公財) 古泉財団特別賞	A	Fe(鉄)とともに生きる♪	新潟医療福祉大学	鉄っちーず	長ヶ部 千夏
(公財) 食の新潟国際賞財団 特別賞	A	食べ物を無駄にしない未来へ食品ロス削減マップアプリ「つなぐ」	新潟大学	あるちーね	野口 真子



# 「にいがた食と農の未来」学生ビジョンコンテスト2025 開催

## ■表彰内容

グランプリ : 賞状、盾、副賞(10万円)、協賛社提供品  
準グランプリ : 賞状、盾、副賞(5万円)、協賛社提供品  
審査委員特別賞 : 賞状、副賞(2万円)、協賛社提供品  
協賛社特別賞 : 賞状、副賞(2万円)、協賛社提供品  
参加全チーム : 協賛社提供品 (食品セット)

## ■審査結果

グランプリ : 「発酵でデザインする未来のミルク」  
(部門A) 新潟薬科大学 Yeast extLACT チーム

グランプリ : 「推しは突然に。ふぞろいだけど輝く、  
(部門B) “にいがただすけ”トレカプロジェクト」  
新潟食料農業大学 Aqua Rise チーム

準グランプリ : 「新潟発:カウントされない食品ロスの削減と有効活用」 最優秀賞 (グランプリ) の2チーム  
(部門A) 新潟薬科大学 ラーメン★LAB チーム

準グランプリ : 「いもジェンヌ知名度アップ大作戦  
(部門B) ～今、私たちが推したい味がある～」  
おいもほろりー新潟大学いもジェンヌプロジェクトー

## ■審査委員長 講評

審査委員長で新潟県農業総合研究所の黒田智久所長は講評を次のように述べました。  
「大学で研究している内容や日頃関心を持ったテーマなど、作品は幅広い分野に及んでおり、発想の豊かさに驚いた。

着眼点や発想のユニークさ、そして、課題解決への貢献度が高い作品の評価が高くなった。また、書類審査だけでは十分には伝わらなかった皆さんの思いが、直接プレゼンを聞くことにより、理解をより深めることができ、たいへん説得力があった。

今日発表した作品を発展させて、是非、実現に向けて取り組んでいただければ、新潟県の食と農の未来は明るいと思う。」

## ■交流会

表彰式終了後には、参加した学生とコンテストの実行委員、審査委員の方々とで交流会が行われた。学生から次々と出される質問に、企業の関係者や大学の先生らが答えるなど、参加した学生の積極性が目立つ充実した意見交換会となりました。

## ■ご協賛

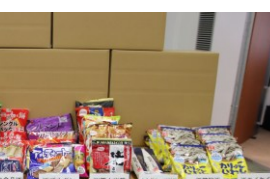
ご協賛をいただいた食品企業様から各社商品を、JAグループ新潟様から魚沼産コシヒカリをご提供いただきました。これらをセットにして、作品を応募した全チームに送り、大変喜んでいただきました。



審査委員長：黒田智久氏



優秀賞 (準グランプリ) の2チーム



## ● 特 別 会 員

亀田製菓(株)  
一正蒲鉾(株)  
(株)第四北越銀行  
(株)新潟日報社  
亀田商工会議所  
にいがた22の会  
オイシックス・ラ・大地(株)

(株)ブルボン  
サトウ食品(株)  
(株)栗山米菓  
(株)新宣  
(株)新潟クボタ  
(株)日本食糧新聞社

(学)新潟総合学園  
新潟県農業協同組合中央会  
亀田郷土地改良区  
(株)エイケイ  
NST新潟総合テレビ  
五十嵐建設工業(株)

## ● 正 会 員

新潟県信用組合  
(株)DI Palette  
(株)本間組  
石本酒造(株)  
(株)ミカサ  
神山物産(株)  
ハセガワ化成工業(株)  
藤屋段ボール(株)  
(株)タケショー  
BSN新潟放送  
新潟陸運(株)  
(株)新潟食品運輸  
月島食品工業(株)  
(株)ニッポン関東支店  
日本甜菜製糖(株)  
(株)鳥梅

新潟工科大学産学交流会  
(株)キタック  
北越工業(株)  
丸榮製粉(株)  
鍋林(株)ヘルスフーズ事業部  
TeNYテレビ新潟放送網  
(株)栗田工務店  
三和薬品(株)  
松田産業(株)  
セツカートン(株)新潟工場  
東邦産業(株)  
麒麟山酒造(株)  
(株)加島屋  
(株)日本フードリンク  
(株)ディモルギア  
UX新潟テレビ21

イカリ消毒(株)  
新潟工科大学  
(株)田中組  
(医)愛仁会 亀田第一病院  
(株)ひらせいホームセンター  
ワタキューセイモア(株) 新潟営業所  
(株)エヌエスアイ  
(株)トップライズ  
(株)ウオシヨク  
(株)ヤマダ  
(株)新潟国際貿易ターミナル  
(株)荏原製作所 北陸支社  
(株)せいだ  
新潟医療生活協同組合

## ● 個 人 会 員

古泉 肇	藤島 安之	和田 充彦	廣瀬 利雄	山口 勉	高橋 常孝	田村 敏郎	杉本 克己
近藤 鴻	大川 秀雄	大倉 正寿	吉岡 謙一	坂田 武利	門脇 基二	大谷 勝男	佐藤 久栄
阿部 徳威	田中 作一	佐藤 和雄	大沢 一衛	佐藤 勉	大島 千春	野上 敏	渡辺 昭雄
槇坂 文晴	清水 良一	五十嵐 源一	新保 房機	古泉 榮三	佐藤 純	倉嶋 則昭	大越 斎
野口 正晴	酒井 定勝	松本 裕志	當野 篤	久保田 紳一	河瀬 三千夫	和澄 孝男	五十嵐 修
望月 健三郎	山田 雄治	鈴木 正二	竹石 松次	古泉 幸代	大森 ゆかり	高橋 慶三	阿部 昭一
渡邊 信也	大崎 新一	坂井 俊一	鈴木 伸作	佐藤 銀治郎	加藤 寿一	石附 由美子	斎藤 幸広
田辺 俊文	小田 静二	渡邊 徹	栗田 浩	栗田 朋子	阿部 文仁	高尾 茂典	五十嵐 豊
古泉 幸一	加藤 純子	高倉 広利	清水 泰成	阿部 愛子	宮口 澄子	五十嵐 康子	五十嵐 早苗
高橋 征男	高橋 克郎	田村 泰生	山崎 尉生	中村 雪絵	村山 浩太郎	稲葉 晋	川崎 千春
秋山 正之	松川 忠史	濱野 剛	小川 善弘	池田 祥護	星野 幸三	糸満 盛人	北垣 大介
小林 哲也	岡田 茂久	遠山 幸男	小野 隆樹	大橋 祐貴	前田 穰	桐原 隆晃	長井 基樹
岸田 良満	中村 健一	小林 宏志	柳澤 敏郎	遠藤 俊介	葉葦 正幸	津島 章彦	舟崎 義朗
小川 陽一	大日方 聡	宮下 好文	坂田 浩一	田中 雅史	藤間 佑輔	品田 卓也	渋谷 政道
村山 雄亮	北爪 文義	近藤 正	高橋 佑	荒井 弘美	重泉 篤史	本間 康弘	中野 克之
原島 徹	最上 正人	石田 勇介	佐藤 正尚	下條 幸二	廣川 正通	小谷 尚志	田中 弼
佐藤 浩晃	村山 和恵	小林 達	長谷川 久晃	酒井 栄一郎	佐藤 聡	小林 守	阿部 欣也
杉谷 浩一	榊原 由貴	金田 季之	宮島 泰	高崎 俊哉	高橋 裕作	小平 勝志	藤田 正明
池田 一史	宮嶋 一博	駒形 正明	藤井 大三郎	阿部 貴美	大沼 成勝	丸山 智史	岡田 龍
小野 隆樹	高橋 大介	伊藤 雅明	秋堂 春美	長谷川 克弥	田中 湖雄	牧 利幸	伊藤 正弘
本間 春治	早川 重男	樋口 正仁	伊積 豊	小林 稔	吉田 たかし	山本 善政	小島 隆
高橋 昭博	高橋 眞代	峰尾 昌明	大森 武士	鈴木 春次	徳橋 隆行		